

平成二十九年
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

- 1 問題は、**一** から **四** まであり、7ページまで印刷してあります。
- 2 学校裁量問題は、**三** です。
- 3 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 4 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、問いで指示されている記号で答えなさい。
- 5 問いのうち、字数が指示されているものについては、句読点や符号も字数に含めて答えなさい。

一 次の問いに答えなさい。

問一 次のA～Dの——線部を漢字に直したとき、「除雪」と熟語の構成が同じになるものを一つ選び、その漢字を書きなさい。

「除雪」

- A 友達は私にとって大切なそんざいだ。
- B 北海道は海産物のほうこだ。
- C オリンピックがかいまくする。
- D 湖岸と中島とを観光船がおあふくする。

問二 (1)、(2)の文から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ書き抜き、同じ読みの正しい漢字を書きなさい。

(1) 海外から輸入した商品の売り上げが伸びて、会社の利易が上がった。

(2) 調理実習では、先生の指示に従い、お互いに強力して作業をすることが重要だ。

問三 中学生の山田さんが、修学旅行で北海道に来た小学生たちに、北海道を紹介する観光ボランティアガイドを行うことになりました。次は、参考にしたウェブページ(A)と、実際にガイドを行っている場面の一部(B)です。これらを読んで、(1)～(3)に答えなさい。

(A) ウェブページ

ハマナス

- 分類** バラ科バラ属。
- 大きさ・高さ** 1.0～1.5m。
- 生育地等** 海岸の砂地に自生する。
- 分布** 北海道では、海岸に多く見られる。本州では、太平洋側は青森県から茨城県、日本海側は青森県から鳥根県辺りまで分布する。
- 花の特徴** 初夏、枝先に1～3個ずつ花を付ける。芳香があり、香水の原料がとれる。花卉の色が美しいので、観賞用に庭木として栽培される。
- 実の特徴** 直径2.5cmほどの球形で、黄赤色に熟す。
- 性質** 耐寒性が強い。
- 名前の由来** ハマナス(浜茄子)の名が定着しているが、ハマナシ(浜梨)が元の名と言われる。
- その他** 昭和53年、北海道の花に指定。

北海道の花「ハマナス」

ハマナスは、北海道110年を記念して一般公募を行い、「花の色が鮮明で葉も美しい」、「生命力が強い」など、北海道にふさわしい花という多くの意見により、昭和53年7月26日に、北海道の花に指定されました。

(B) 実際にガイドを行っている場面の一部

(山田さん) みなさん、こんにちは。私は、観光ボランティアガイドを行う山田です。

(小学生) よろしくお願ひします。

(山田さん) この辺りに咲いている赤い花は、「ハマナス」という花です。みなさんは知っていますか。

(小学生) 北海道に来て初めて知りました。

(山田さん) そうですか。でも、ハマナスは、東北や北陸などの本州でも見ることができません。みなさんの学校の近くでも咲いているかも知れませんよ。

(小学生) へえ、帰ったら探してみよう。

(山田さん) 北海道では、道内各地の海辺の砂地に生えています。ハマナスは、今から約四十年前の昭和五十三年に、北海道の花に指定されました。ハマナスを見て、どのような印象を持ちましたか。

(小学生) 花の色が明るくてきれいです。

(小学生) 赤くて丸い実がかわいいと思います。

(山田さん) そうですよ。ほかにも、「生命力が強い」と言う人もいます。その理由は、①からです。

(小学生) 質問があります。ハマナスは、ナスの仲間なのですか。

(山田さん) いい質問ですね。ハマナスの「ナス」は、元々は果物の「梨」の字を当てていました。「浜梨」がなまって「ハマナス」になったと言われています。

ナスの仲間ではありません。

(小学生) ハマナスは、梨の仲間なのですか。

(山田さん) そうです。ハマナスも梨も同じバラ科の仲間です。果実を梨にたとえて「浜梨」と呼んだのでしょう。

(小学生) 面白いですね。

(山田さん) ②

(1) (B) から、山田さんは、観光ボランティアガイドを行うに当たって、何を心がけていることが分かりますか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 自分の考えを印象付けるために、重要な言葉を繰り返して話すこと。

イ ハマナスについて詳しく説明するために、様々な比喩を用いて話すこと。

ウ 自分の考えを確実に伝えるために、自分の意見を中心に話すこと。

エ 小学生たちの興味や関心を引き付けるために、質問を交えながら話すこと。

(2) (B) の ① に当てはまる表現を、十五字以上、二十字以内で書きなさい。ただし、(A) から理由として適当な文を二つ取り上げ、まとめること。

(3) 山田さんは、(B) の最後で、ハマナスの特徴を生かした利用の仕方について、(A) の内容を参考にして二つ紹介しました。(B) の ② に当てはまる表現を、解答欄に示した表現につながるように、一文で書きなさい。ただし、小学生たちに伝わりやすいように言葉を使いかえること。

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは、ある職場で働く「私」が、別の職場で働く二歳年下の「陽子ちゃん」と知り合ったときの話です。

陽子ちゃんと知り合ったのは近所のパン屋だった。

仕事の帰りに、あるいは週末に、家で食べるためのパンを買う。それにはこの店の、小麦の匂いのぷんと立ち上がる堅いパンがいちばんだった。小麦と水と天然酵母だけで焼かれた素朴なパンだ。特に宣伝しているわけでもなさそうなのに、店には客足が途絶えることがない。普段着で、ひとりで買いに来る女性客が多く、地味なパンがひっそりと売れていく。世の中は私
1
が思っているよりも上等なのかもしれない。この店に来ると、そう思うことができた。

その小さな店で一度だけパン教室が開かれた。

天然酵母パンを焼いてみませんか——そう書かれた貼り紙にどうして振り向いたのか今となつては思い出せない。パンは買うものと決めていた。自分で焼く暇なんかなかった。それなのに、気がつくと、参加しますと申し出ていた。普段はパンを焼くどころか料理もせずに済ませたいほうだから、罪滅ぼしみたいな気分だったのかもしれない。

参加者は女性ばかり十五、六人だった。パンを焼くのがまったく初めてなのは、驚いたことに私ひとりだったようだ。みんな、家でパンなんか焼くんだろうか？ いつ？ なののために？ 聞いてみたい。聞いてみたい、と思いつながら、篩ふるいに取った小麦を延々とかきまわし続けた。こ
うやってフスマを取り除くのだそうだ。休みなく粉をかきまわすうちに、掌てのひらは赤くなり、額にはうっすらと汗をかいていた。ふと顔を上げると、台の端で店の主人が黙々と小麦を篩ふるいい続けている。無骨な求道者ぐどうしやのようにも見えた。

想像していた優雅な教室とは違い、課される作業はひたすら地道で厳しかった。しかも、主人がいちばん熱心なのだ。手を休めるわけにもいかなかった。いくつかの班に分かれてけっこ
うな重労働に励んでいたせいで、別のグループの人とは言葉を交わす機会もないほどだった。だから、実習中の陽子ちゃんの様子を私は見ていない。見ておきたかったな、と思う。柔らかな髪を白い頭巾に包んで一心不乱に粉をこねていたんだろう。

教室の終わりに、焼けたパンを試食してひとりずつ感想を述べた。私はへとへとだった。パンはたしかにおいしかった。イベントとしては成功かもしれない。しかし、あの工程を
2
思うととてももう一度自分で焼く気にはなれなかった。

楽しかったです、おもしろかったです、お店のパンが自分でも焼けるなんて感動しました——参加者たちが順々につるつるした感想を述べていき、いよいよ私は戸惑った。楽しいというなら、のんびり映画でも観ているほうが楽しい。おもしろかったけれど、窯から出したばかりで、しかも鼻ひなみめが目が入って三割増にはなっている。だいたい、手取り足取り教えられてなんとか焼き上がったのだ。余裕のある感想などまるで出てこなかった。

「私は自分では決して焼かないことになりました。この店でずっと買い続けます」

凜りんとした声でそう宣言した人がいた。まったく同じ気持ちだったから、私はうつむいていた目をして発言者の顔を見た。髪かみの長い、可愛い女の子だ。それが陽子ちゃんだった。

帰り道で一緒になった。

「びっくりしたなあ。いくら挽ひきたてがおいしいからって毎朝その日の分だけ小麦を製粉するなんて」

前を向いたまま陽子ちゃんがいった。私は隣で小さくうなずいた。

「それをぜんぶ手で漉こすんだもの。篩ふるいにかけて、混まじってるかどうかともわからない外皮をくま

なく探す」

毎日そこから始める人がいるのだ。私たちは言葉少なに商店街の中を歩いた。

上等だと思っていた世の中を、実はなめていたのかもしれない。適当にやっていたら、適当にやっていたら、あつていける。社会人生活十年目にしてそんなふうには思いついていないところだった。適当にやってみたら、あのパンは焼けない。いつどんなときに食べてもしみじみとおいしいものが、適当につくられるわけがなかった。

世の中にはいろんなすごい人がいて、ぱつと思いつくアイデアのすごい人もいれば、地道な作業を淡々とこなすパン屋の主人みたいな人もいる。あたりまえといえればあたりまえなのに、ぱつとするほうに目を奪われて、パン屋の主人に気づかない。少なくとも私はパン教室に参加しなければずっと見過ごしたままだったろう。

「今日は参加できてよかったよ」

陽子ちゃんが放心したようにつぶやいた。

「すごい人に会うと敬虔な気持ちになるね」

私たちはふたたびうなずきあった。

(宮下奈都「転がる小石」による)

(注) フスマ——小麦を粉にする時に出る外皮などのくず。

無骨——ここでは、「信念を貫き通すさま」のこと。

求道者——一つの道を極めようとして修行する人。

敬虔——深くうやまい、態度をつつしむこと。

問一——線1「世の中は私が思っているよりも上等なのかもしれない」とありますが、「私」が、このように思ったのは、どのような様子を目にしてきたことによるのかを、次のようにまとめるとき、に当てはまる表現を、十字以上、十五字以内で書き抜きなさい。

特に宣伝しているわけでもなさそうなのに、いつどんなときに食べてもしみじみとおいしい素朴なパンを求める人たちで、近所のパン屋にの様子。

問二——線2「とてももう一度自分で焼く気にはなれなかった」とありますが、「私」が、このように思った理由が分かる最も適当な一文を文中から抜き出し、その最初の五字を書きなさい。

問三——線3「つるつるした感想」とありますが、この表現から、「私」が、パン教室の参加者たちの感想を、どのように思っていることが分かりますか、最も適当なものを、ア〜エから選びなさい。

ア 思いやりのないもの。

イ あたりさわりのないもの。

ウ 型破りなもの。

エ その場にふさわしくないもの。

問四——線4「少なくとも私はパン教室に参加しなければずっと見過ごしたままだったろう」とありますが、「私」がパン教室に参加したことによって、世の中で仕事をすることに對する「私」の考え方はどのように変化しましたか。その変化が分かるように、九十字程度で説明しなさい。

三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。(①から⑮は、段落の番号を表します。)

- ① 外国へ行くと「窓」に対する意識の差を歴然と思い知らされることが多い。ヨーロッパではどんな小さな町であっても、家々の窓辺には花が飾られ道行く人の気持ちを和ませ¹てくれる。ささやかな工夫が、町全体をゆとりあるものに見せるし、やさしい人が住んでいるように見える。きつと住人によって、家に似合う花の色とか、種類やポリウムなどにも十分な計算がなされている気がする。それが「見られること」の基本だと思う。大事なのは「見せる」側と「見られる」側が、気持ちの良さでバランスがとれていることなのだ。
- ② ドイツへ旅行した時、都市部には感じのいいマンションが多かった。気になったので、どうして感じがいいのか注意深く観察してみた。
- 「カッコイイなあ、あんなマンションが日本にあつたら住んでみたいなあ」
- 「でも、何でこんなに日本と違うんだ？」
- 「アレッ? そうか。窓が違うんだ。窓がおしゃれだからだ。そうか、なるほどな」
- ③ いいなと思つて目にしたマンション個々の特徴のほとんどを演出していたのは、実は「窓」だったのである。ドイツ人の「見られる」ことへの意識を感じた瞬間だった。似た印象のマンションが少なかったのは、設計する人もそこに住む人も、窓をいかに個性的に演出するかということにカチを見出しているからだと思つた。欧米では窓辺に何かを置くと、外からこう見えるだろうという「見せること」と「見られること」を自然に想像する習慣が、昔からすでに出来上がっているのだと思う。インドアとアウトドアは、窓を通してつながっているという意識が当たり前にあるのだ。
- ④ それは照明でも同じである。
- ⑤ 欧米では、レースの掛かった窓辺にシェイド・ランプを置いた家をよく見かける。夕方から夜にかけての魅惑的な時間に、オレンジ色の明かりが実に幸せそうに映る。外にいる人まで家庭の温かみが伝わってくる。その幸せ感をつくっているのは、レースのカーテンとシェイド・ランプの組み合わせである。明かりを使って「見せること」をアピールしているのだ。
- ⑥ どんなに質素な家であっても、どんな豪華な家であっても、窓はそこに住む人の気持ちのステージであるべきだと私は思う。それを意識していないと、物置のようになっていて窓のおかげで立派な家も貧相に見えてしまうのではないだろうか。
- ⑦ さて、日本の住宅が窓を使いこなしていない現状を、私はいつも何か変だなと思つて眺めている。みなさんが住んでいる近所の家の窓を、一度注意して眺めてみてほしい。特に出窓のある家。さて、どうだろう。「フーム、なるほど」と感心するほどの窓や「これは美しい」という窓には、なかなかお目にかかれないことに気づかれると思う。
- ⑧ ひよつとして出窓には、後ろ向きのぬいぐるみか段ボールの箱、もしくはテレビのお尻などが見えなかっただろうか。ついでに物に押されて、変な具合によじれたレースのカーテンが見えなかっただろうか。
- ⑨ ほとんどの人は家の中が気持ち良ければいいという内側優先の発想しかないから、外から窓がどう見えるかなんてことは、ほとんど意識していないのではないだろうか。
- ⑩ 窓は光が入ってくるただの「明るい壁」みたいなものでしかないから、「見られること」など考えたこともないだろうし、ましてや「見せる」などと言われてもまるでチンプンカンプンで理解できないかもしれない。つまりそれは窓は仕切りにはなつていても、決して「内と外」をつないではいないということである。

11 ひよつとしたら昔から日本人の生活の中では、窓を通して「見る」という概念³はあつても、「見られる」という概念は生まれなかったのかもしれない。現代の家とは違う昔の窓の少ない日本家屋では、窓が小さな「明かり取り」の位置付け以上に育つのが遅れたからではないか。それなのに建物の洋風化が急速に進んだことで、意識の面ではまだ追いついていないのかもしれない。だから構えは洋風になったというのに「見られること」に関しては、まだ昔のままだと言いうこともできるのではないか。

12 日本人は外国からさまざまなことを学んだ。気候、風土、習慣などの違いを越えて、あるものはそのまま、あるものは日本流に置き換えられて、いいものはいいという発想でいろいろなものを受け入れてきた。

13 そんなもの一つに日本でもそれなりのブームになり、文化としても定着する兆^{きざし}のあるのがガーデニングである。日本人が今まで控えめだった「見せたい」気持ちが、花や庭を通して小さな広がりを持ち始めてきたということなのだろう。花好き以外にもそんな気持ちの人が増えるのは、実にいいことだと思う。

14 いつもは窓など意識しない人が、なぜかクリスマスシーズンになると突然イルミネーションを灯したりして、この時とばかりに飾り付ける人もいる。それはそれでほほえましいことである。その時だけ「外」に対する意識が出てきて、自分の飾ったものを見てほしいという気持ちが強くなるのだと思う。

15 実は、そういう気持ちこそが大事なのである。そんなふうに芽生えてきた「見せること」や「見られること」への意識を、普段の生活でも持ち続けられるよう育てられないものだろうか。

(注) シェイド・ランプ——かさのついた電灯。
(坂川栄治『光の家具』照明)による)

問一 —— 線1、3の読みを書きなさい。また、—— 線2の漢字を書きなさい。

問二 この文章の段落相互の関係について説明したものととして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア ⑤の段落では、①から③の段落までの内容と対立する内容を述べている。

イ ⑥の段落では、①から⑤の段落までの内容を踏まえて意見を述べている。

ウ ⑧の段落では、①の段落で説明された内容の具体例を述べている。

エ ⑫の段落では、⑧の段落で示された疑問に対する答えを述べている。

問三 —— 線1「日本の住宅が窓を使いこなしていない現状」とありますが、筆者は、日本の住宅の窓はどのようなものだと述べていますか。「内と外」という語を使い、文中で述べられている欧米との違いが分かるようにして、四十五字程度で書きなさい。

問四 —— 線2「窓の少ない日本家屋では……育つのが遅れた」とありますが、このような日本家屋に住んできたことよって、日本人はどのような考えを身に付けてきたと筆者は述べていますか、文中から七字で書き抜きなさい。

問五 —— 線3「実は、そういう気持ちこそが……育てられないものだろうか。」とありますが、ここで、筆者が言おうとしていることを、八十五字程度で説明しなさい。ただし、⑭の段落で筆者が述べている日本人の気持ちを明らかにすること。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

昔、唐の絵かきに戴嵩^{たいそう}といふあり。牛をえものにてかく事上手なり。ある時、角を振り尾を立てて、牛どもの戦ふをかく。ひとしほうるはしくいできたりと思ひて、人々に見せあへり。その後、牛つかふ小童の、野飼ひに出でたるにこの絵を見せ、汝^{なんぢ}が朝夕つかふ牛に、よく似たるかといひて問ひし時、牛飼ふ小童、これを見て笑ふ。「いかに。」となれば、「牛の戦ふ時は、尾を立てずして腹に尾を付くるものなり。この絵は尾を立てたれば、あやまりなり。」といひし。戴嵩驚き、げにもと感じ、その絵を破りたり。

³ まことに名人は、何事によらず、戴嵩のごとくありたきものなり。戴嵩ほどの牛かきなれども、まことの牛に手なれぬ事なれば、あやまりもあるらんと、朝夕なるる牛飼ひの小童に見せたるは、名人の戴嵩なればこそ。

(中川喜雲「私可多咄」による)

(注) えものにてかく事——最も得意なものとして描くこと。ひとしほ——一段と。

牛つかふ小童——牛飼いをしている子ども。「牛飼ふ小童」、「牛飼ひの小童」も同じ。

驚き——はっと気が付いて。げにも——もつともだ。

手なれぬ——扱い慣れていない。

あやまりもあるらん——誤りもあるかもしれない。

問一——線1「いひて問ひし時」とありますが、このときの戴嵩の言葉を全て抜き出し、その最初と最後の四字をそれぞれ書きなさい。

問二——線2「あやまりなり」とありますが、小童が戴嵩の絵の誤りについて話した内容を次のようにまとめるとき、①、②に当てはまる表現を、それぞれ五字以上、十字以内で書きなさい。

戦っているときの牛は、尾を立てず	<input type="text"/> ①	けれども、戴嵩の描いた絵の中
の牛は、尾を	<input type="text"/> ②	。

問三——線3「まことに名人は……ありたきものなり」は、「本当に名人というものは、どのようなことについても例外なく、戴嵩のようであってほしいものだ」という意味ですが、ここで筆者は、名人にはどうあってほしいと考えていますか、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 自分の作品の手本となるものを毎日観察するほどのひたむきさをもってほしい。
- イ 自分の作品を人々に見せる機会を増やし、多くの人々に広める努力をしてほしい。
- ウ 自分の作品に対する他人からの意見を受け入れるような謙虚さをもってほしい。
- エ 自分の作品の仕上がりに関わらず、作品を大切にするような心がけをもってほしい。